

# 出会い

創刊号  
発行：大念寺  
小矢部市中央町1-34  
TEL0766(67)1260



立派になった本堂を眺める

コロナ禍が続く中、緊急事態状況ではないにしろ、以前の様な日常生活がおくれています。寺の行事も一昨年の「おねはん」以来中止し、昨年十一月に「お十夜」で一時的復活しましたが、また停止している状況です。

有縁の皆様のご寄進により平成二十六年十月に本堂を建て直ししました。お参りの行事がない中、せっかく再建して立派になった本堂に是非足を運んでいただきたい。阿弥陀様に会っていただきたい、お念仏を唱えてほしい。浄土宗の教えに触れてほしいとの思

## 集いの場を目指して

いから「お寺の新聞」を発行することにしました。意外と知らない「お寺」と、「浄土宗」のこと、「仏教」のことなどなど、今後、簡単な新聞のあたりでお伝えしてまいります。イベント開催など、お寺に集う機会も徐々につくっていきたく思っていますので、どうぞお気軽に立ち寄ってください。

〔副住職〕

「幸せって何なんですかねえ」と妻役の女性から尋ねられ、ムロツヨシが答える。「あなたがいるでしょ、で僕がいる、で美味しいギョーザがあるわけ」ここで二人は味ぼんたつぷりのギョーザを頬張りながら幸せを味わう。これは最近見たテレビのコマースイナルの一コマですが、僅か十秒余り場面の中に幸せのヒントが込められているよう

「美味しい高級料理は誰でも食べられるわけではないが美味しくご馳走を食べることは誰にでも出来る」と言った誰かの言葉を思い出します。「楽しみは朝起き出でて昨日まで無かりし花の咲ける見るとき」福井県が生んだ清貧の歌人・橘曙覧は日常の生活の中で味わう幸せを独楽吟として四十首余りを残してあります。身近な処に沢山の幸せがありそうです。

お寺の行事が長らく休止状態にあり、このままではいかんと思ひ、手始めに「お寺の新聞」を発行することに致しました。副住職が昨年六十歳で定年

「あいさつ」

大念寺住職 小林照人

に思われます。

「美味しい高級料理は誰でも食べられるわけではないが美味しくご馳走を食べることは誰にでも出来る」と言った誰かの言葉を思い出します。

強いられて来たことで殆どの人が体力を落とし、精神的にもストレスから気力も落ちて

自分の身体や心は自分で衛るしかないと思ひます。お寺の行事が長らく休止状態にあり、このままではいかんと思ひ、手始めに「お寺の新聞」を発行することに致しました。



法然上人  
**浄土宗**  
開宗850年  
お念仏からはじまる幸せ  
令和6年

を迎え、あと一二年は契約社員として半日出勤しながらお寺の仕事に取り組んでおります。新聞の発行も副住職の発案によるもので、今後新聞を通して何らかの呼びかけをさせていただくことがあろうかと存じます。その時には何卒宜しくお願い致します。新聞にはお檀家皆さんからの投稿も寄せていただきました。それらが新しい出会いの場となっていくことを願っております。

## 牛にひかれて 善光寺詣で 只今、御開帳中

浄土宗の大本山のひとつ長野「善光寺」では、七年に一度の御開帳が四月から始まっています。コロナ禍の影響で一年延期しての開帳です。参拝者の密を避ける狙いから通常より一カ月長くし、過去最長の八十八日間。六月二十九日まで感染防止に万全を期して行われます。一生に一度は詣でたいといわれている善光寺詣で、新幹線で約一時間と便利になった長野へ足を伸ばしてみたいかがですか。

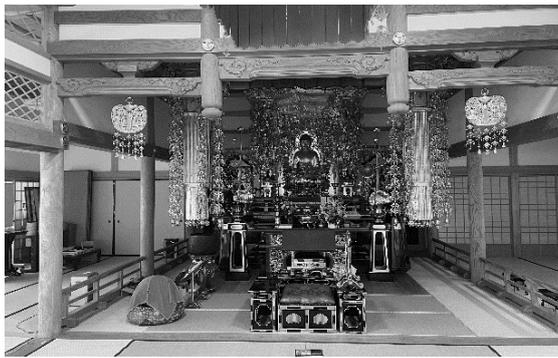


# 「てらかつ」始めます

## お寺の場を生かした活動

お寺ならではの活動「てらかつ」を始めます。

まずは「写経会」からスタートします。写経のことは聞いたことがあるけど、実際にやったことがないという方が多いのではないのでしょうか。お寺の本堂、仏様の前で写経に取り組んでいただきます。写経はお手本をもとに字をなぞるだけです。筆、筆ペン、サインペン、えんぴつ等、どれも大丈夫です。お香が炊きこまれた非日常空間で精



神を集中する作業は、いろんな効果をもたらしてくれるはず。手書きで文字を書く行為は、脳の前頭葉の活性化が期待できるといって研究結果は数多くあります。脳の活動が活発なほど、認知症の治療・予防(ボケ防止)に効果があると考えられています。

手先を動かすリハビリ(作業療法)にも、文字を書くのは効果大です。開催日時 毎月第三土曜日 午前10時〜12時

■持ち物 特に必要なありません(写経用紙、筆記用具準備します)

■参加料 五〇〇円  
※午前10時から「おつとめ」をした後に写経を始めます。  
※納経のご要望も承ります。  
※時間内にお越しいただき、ご自身の作業終了を以てお帰りいただいで結構です。

六月十八日(土)より  
スタートします

# おてらおやつクラブ

### 余った食品をお持ちください

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。日本国内において子どもの七人に一人が貧困状態にあります。(厚生労働省 二〇一九年国民生活基礎調査より)

皆さまのご家庭でも、もし食べきれないものがありましたらお寺にお持ちください。一旦お供えし、おさがりとして「おてらおやつクラブ」に届けます。食品は賞味期限が二週間以上残ったものに限りませんが、日用品等も受け付けておりますので、不明な点はお尋ねください。

## 大念寺の① 仏さま紹介

ご本尊

【阿弥陀仏(如来)】

浄土宗は阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、お浄土に生まれることを願う信仰です。大念寺のご本尊は、その阿弥陀仏の坐像です。本堂再建の際に、金箔を直し、眩いまでの光を放っています。

阿弥陀仏は、法蔵菩薩という名の修行者だったころ、あらゆる国を見聞しました。そして、無常なる悟りを得ようと発心し、五劫



という計り知れない時間修行し、生きとし生ける者を救済する四十八の誓願をたてられました。浄土宗ではその中でも、第十八の誓願をとりわけ大事にします。「念仏往生の願」といい、どのような凡夫であっても阿弥陀仏の名を唱えれば、必ず阿弥陀仏の国である極楽浄土に往生できると宣言されたのです。

## 編集後記

大念寺では現任職が若い頃、「青壮年のための仏教大講演会」というイベントを市の総合会館大ホールで二十年間続けて開催していたものです。毎年東京等から著名な先生をお招きしての開催で、実は大変なことをやっていたのだと思いつ返し、そのバイタリティーに感服しています。今はネットの時代になりセミナーや講演会もオンラインが当たり前になっていきます。ただ、やはり「生」が一番です。「生」を感じられる場としてのお寺を目指して、コツコツと動き出します。

【副住職】



認定NPO法人

おてら  
おやつ  
クラブ